

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	義務教育までのスキルを活用した職業観育成カリキュラムの構築 ～ 武蔵野東学園の職業観育成カリキュラムの構築 ～		
法人名	学校法人 武蔵野東学園		
学校名	武蔵野東技能高等専修学校		
代表者	理事長 寺田 欣司	担当者 連絡先	今城 慎一郎 TEL 0422-54-8611

1. 事業の概要

最近ニートという言葉がマスコミを賑わせている。彼等は仕事も通学もしていない無業者のことを称し64万人いると言われており、また労働経済白書によるとニートの他に、15～34歳の未婚の若者で、アルバイトやパート勤めのフリーター217万人、合わせるとこの世代全体の約8%にあたるとも言われているのが現状である。定職のない若者たちの増加は、経済・産業の基盤を揺るがし、さらに税制や年金など社会保障制度を大きく歪めかねないと危惧されている。この現状を改善するには、学校教育の中で、いま以上の十分なキャリア教育が必要であり、中でも職業観育成こそが最も必要であり重要であると考ええる。さらに、育成の基盤となるそのカリキュラムには強固な一貫性がなくてはならないと感じる。そこで、本学園の幼稚園、小学校、中学校、高等専修学校の連携により、武蔵野東学園の職業観育成カリキュラムの構築を図り、広く全国の学校に頒布し、このカリキュラムを全国に普及することを主旨とする。そして、この社会的現象と言うべきニート、フリーター問題の解決の一因となればと願い実施してきた。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

十分に満足のいく研究活動であった

②事業により得られた成果

- ・高等専修学校における「職業観育成カリキュラム」
- ・DVD「職業観を促す模範保育・授業とその実践」

③今後の活用

学校生活全般において、常に活用していくと共に、興味関心を抱いていただいた方や理解者(団体)に波及活動を継続的に行っていく。

④次年度以降における課題・展開

授業の在り方によって、その活用法は常にアレンジされていくことになる。

例えば、今年度は、卒業進級判定試験(学年末定期考査)後に、試行的ではあるがスキルアップを含めた完全選択制の授業を行った。これにより、職業観育成カリキュラムは更に奥深いものとなり、自身が必要と感じる事柄について深く学ぶことが出来る。そして吸収した知識を活用し、「スキル」を高めていくことが重要であることを常に考え、我々教員は指導に当たることになる。

3. 事業の実施に関する項目

①アンケート調査

同法人内で、教鞭を執る200名の教職員に、対象(園児・児童・生徒の年齢)の違いから職業観育成に関してどのような関心を示し指導に当たっているかその傾向分析を行いカリキュラムに反映していくことを目的とした。調査方法はアンケート形式をとり、その内容と結果は別ファイル(事業報告書)の通りである。

②カリキュラムの開発

テーマ・・・「職業観育成カリキュラム」

開発経緯・・・同法人内に幼・小・中・高を持ち一貫した教育を行えるところはそれ程多くはないが、職業教育を行う高等専修学校では、それ以前に学ぶべき事が大事であることを再確認するために義務教育までに身に付ける「スキル」を盛り込むこととした。

対象・・・高等専修学校で学ぶ全生徒

手法・・・全学校生活

時間数・・・全学校生活

開発内容・・・別ファイル参照

③実証講座

幼稚園教諭対象2回(10人)

「パネルシアターを鑑賞し色々な仕事があることを知る」

保育者のコメント

幼稚園年齢では職業ということ意識している園児はあまり多くありません。しかし、子どもたちが好きで普段からよく目にしているパネルシアターや本を通して、そこで働いている人がいるということを知ることは将来の職業観に結びつきます。また身のまわりのことを自分でやろうとする力も将来の仕事に結びつく大切な力です。そのようなことに気付けるようこのような保育を設定しました。

実際に行くと、写真を見ながら自分の夢を話したり、言葉を発してなくても好きな車の写真をじっと見ていたり。まだすべての園児が意識を持てるわけではありませんが、一人ひとりの園児の気持ちを大切に、身辺自立を促していくことが、幼稚園での職業観の育成につながっていくと考えます。

「かがくらんどを教材として仕事をしてみたいという意識を育む」

保育者のコメント

「自分が大きくなったら」ということを、少し具体的に考えられるようになってきた年長の二学期に、自分の将来の姿を想像して絵に描き表し、それをういて今回の保育を行いました。導入として「お仕事クイズ」で楽しい雰囲気をつくり、何人か自分のなりたいものを発表し、友達からの質問を受けました。自分の言葉で考えながら話すことで、また友達の発表を聞くことで、将来の自分を今まで以上に意識できるのではないかと考えました。今回の保育を受けて三学期には、自分が今年度描いてきた絵画を綴る表紙に、将来なりたい姿をちぎり絵で表していきます。漠然としたイメージや憧れからでも、「仕事をする」という前向きな興味を持っていけるよう、幼児期から働きかけていくことが大切だと思います。

小学校教諭対象2回(10人)

「買い物実習」

授業者のコメント

映像の中には6年生が同じ建物内の1階にある、チャレンジショップ「ゆう&あい」を利用して行った買い物実習の様子がおさめられています。実習の前にイメージがしやすいよう、写真や同店のメニューを教材として活用すると共に、画一的な指導にならないよう児童の理解度に応じた目標を設定しスキルの習得を目指しています。実習では、買い物のやりとりだけではなく、店内で飲食することで周囲を意識したマナーを身に付けさせていくといったねらいもあります。買い物実習を行うことで、お金の扱い方を学び、マナーを意識することは将来の就労に向けて必要不可欠であり、社会自立の土台となる取り組みであるといえます。

「お店の工夫を考える」

授業者のコメント

小学校低学年では「周りの人々に支えられて生活している」ことへの意識付けをすることが大切となります。2年生の生活科で行う校内秋祭りで自分たちが出店するにあたり、その参考に近所のお店にインタビューに行き、そこで働く人たちはどんな工夫をし、どのような気持ちで仕事をしているのか調べることにしました。お店の方から働くことの喜びや苦勞を直に聞くことにより、たくさんの発見がありました。今後さまざまな分野で働く人々のことについて学習し見学にも行きます。自分たちの生活を支えてくれる人々の仕事内容・仕事ぶりを学ぶ中で、自分自身の仕事への夢を持たせ、膨らませていくことが小学校段階での職業観の育成につながっていくことと思います。

中学校教諭対象2回(10人)

「技能」

クラフト・陶芸・手芸・切り絵・絵画・器楽・コンピュータ

授業者のコメント

エクセル・タイピング・ワードの3本立てで行いました。エクセルはオリジナルのテキストを使用した基本操作の学習。タイピングはソフトやインターネットのタイピングサイトを活用し、ホームポジションからのブラインドタッチを確実にできるよう指導。ワードは似顔絵作成機能を用いて、自分の似顔絵作成を独力で進めました。いずれにしても高い「指理解力」と「実践力」が必要となり、その訓練の場にもなっています。後半には他の6つの選択コース(絵画、切り絵、手芸、クラフト、陶芸、器楽)の授業も紹介されています。生徒の関心や技量に応じたコース選択をして、作業能力や課題に取り組む集中力を養っています。

「将来観」

職業観第二回講演会

職業ガイドブック作り

授業者のコメント

各学年ごとの目標は、1年生「多くの職業を知り、興味を持つ」2年生「社会の一員としての責任を学び、また人生を切り開いていく力を養う」3年生「幼稚園実習を体験し、仕事への理解を深める」です。1・2年生対象の初めの授業では保護者に協力を頂き、いろいろな職業ごとの分科会に分かれて話を聞いたり質問をしたりしました。「接客・サービス業」では実際にあった乗客とのトラブルやそれに対する対処を考えたり、そこから得られる接客の心構え等を話していただいたりしました。生徒は今自分が学校で取り組んでいることが仕事に直結することが分かり、有意義に過ごせました。

後半は1年生対象の職業調査の様子です。インターネットや書籍での情報は大変多く、興味関心を引き出すことによって家庭でも自主的に調査する生徒が続出しました。

高等専修学校教諭対象1回(8人)

「Challenge Shop ゆう&あい」でのインターンシップ」

担当者のコメント

高等専修学校では、義務教育までに得た「知識」、「スキル」、「動機付け」を以下に実践の場で活用するかという観点から、学内で運営・形成を行っている“Challenge Shop ゆう&あい”でのインターンシップを社会へのワンステップとしています。

インターンシップには「1年生・・・2年次にレジ打ちを担当する生徒の養成」、「2年生・・・レジ打ち担当・家政科生徒のバディによる調理実技実習」、「3年生・・・進路内定者のバディによるインターンシップ」と形態には3つのバリエーションを持っています。特に、3年生は社会の疑似体験として、紫峰祭(学園祭)での、模擬店運営が任されているので、その事前訓練としても活用されています。収録されていました3年生は、緊張しながらも二回目ということもあり、流れをつかめていました。

Challenge Shop ゆう&あい1回(6人)

担当者のコメント

平成18年4月にオープンしましたChallenge Shop ゆう&あいは、学校法人武蔵野東学園が運営し、日常業務は本学園教職員で行っています。障がいのある者となない者が共に協力し、それぞれの役割分担を明確にすることで、円滑な業務がなされています。当Shopが一つのモデルケースとして、どなたでも幸せに働くことを追求したアンテナショップになれば幸いです。

Shopは、『喫茶&軽食』『委託販売』『展示』『インターンシップ』を営業の大きな柱とし、在園・在校・卒業生の保護者はもちろんのこと、地域の方々のみならず、ひと月平均1,800名くらいの方々が来店されています。『喫茶&軽食』に関しては、開店当初と比べて品数が豊富になり、質の向上にも努めて参りました。特に、5個限定のお弁当販売は好評で毎日完売となっています。『委託販売』は、主にレンタル棚を活用していますが、開店前の心配をよそにいつも満帆に棚が埋まっています。何が一番ということはありませんが、卒業生が御世話になっている職場からも、商品をお預かりできることが出来、本当に良かったと思っています。『展示』では、卒業生の絵をピクチャーレールに掲げたり、委託販売商品の広報スペースとして、フルに活用しております。とても有意義な空間であるとお客様からも好評です。最後に『インターンシップ』ですが、日常生活で行っていることと、大きな開きがあることを感じる場として捉えられるか否かが大切なポイントとなります。困惑することを大前提として、厨房内業務を可能な限り分かりやすく示してあるので、不明な点は耳で聞いて、目で確かめながらインターンシップ生も日を追う毎に少しずつ行うことが出来ています。

④その他

本事業は、幼・小・中・高が同法人内にある学園ならではの研究テーマではあるが、この研究成果が、職業教育を行う高等専修学校において、非常に重要な事柄を知らせてくれた。

世間一般では、後期中等教育機関の出口部分で、進路のことを考えるにあたり、社会性が育っていないという漠然とした表現で進学を促したり、就職浪人等卒業後の器が見つけられない事がある。本校に関しては、卒業後の受け皿は100%であり、パートやアルバイトは勿論のこと、大学進学希望者の浪人以外は認めていない。その根本にあるのは、幼少時期から社会自立を目標に「スキル」を高めている障がいのある園児・児童・生徒の職業観育成にある。

単に送り出せばよいといった進路指導が続けば、今後も、離職者やニート、フリーターの問題は解消されないのであろう。とにかく、教育現場に限らず、成果の上がらない現行通りのことを行っている、何も変わらない。事態は益々悪化する一方である。

本校では、次年度も文科省委託事業が採択されれば、ニートへの職業教育支援を行い、本事業の成果物を有効活用していき、現状とは異なる世界観・職業観を育てていきたいと考えている。